

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1271500884		
法人名	有限会社 徳志会医療研究所		
事業所名	グループホーム輝の杜		
所在地	千葉県茂原市緑ヶ丘4-3-2		
自己評価作成日	平成23年3月6日	評価結果市町村受理日	平成23年4月19日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kaigo.chibakenshakyō.com/kaigosip/Tod.do">http://kaigo.chibakenshakyō.com/kaigosip/Tod.do</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人ヒューマン・ネットワーク		
所在地	千葉県船橋市丸山2-10-15		
訪問調査日	平成23年3月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域の皆さまとの交流や家庭的な雰囲気を大切にしながら、ご本人の意向や願いを理解することで、残存能力を最大限に活かし、より良い日常生活を送ることができるよう支援いたしています。又、医療面においても主治医が隣接されている為、医師や看護師との連携が常にとれる体制を整えております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員が入居者への日頃の寄り添い、会話の重要性を良く認識している。全職員がセンター方式を活用し、アセスメントを行い、又、モニタリングもしている。職員それぞれに気づきが違い、様々な視点から利用者を把握できる仕組みができあがっており、ケアプラン作成にも活かされている。運営推進会議をサービス向上に活かし、地域との交流を積極的に行っている。更に職員の介護力を磨くための研修も充実している。管理者・職員が理念を共有し、入居者一人ひとりの持っている能力を引き出し、明るく家庭的な雰囲気の中、安心して楽しく健康的な生活が送れるよう個別支援を行っている。食事の入居者の笑顔が印象的であった。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+Enter)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	月一度実施しているミーティングにおいて事業所理念を唱和し確認し合い、日々理念に基づき取り組んでいます。	「介護に真心を・一人ひとりの話を良く聴き・良く知り相互信頼に答える・地域と交流、協力体制を持ち、介護力を磨き総合力を高める」との理念を掲げている。職員会議で常に確認し合い、職員全員が理念を共有し、入居者一人ひとりの持っている能力を引き出し、明るく家庭的な雰囲気の中、安心して楽しく健康的な生活が送れるよう支援を行っている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者様とスーパーへの買い物・地域の清掃・イベント等に参加し触れ合い、地域のボランティアの方々との交流も深めています。	自治会のゴミ0運動で掃除した後一緒にお茶したり、夏祭りに大型ポスターを作って飾ったり、文化祭に作品を出展し全員で見に行ったりしている。学校の運動会にも招待される。高校のマンドリンクラブが演奏に來たり、生花・踊り・演芸歌謡等、地域のボランティアとの交流も多い。散歩時に「お婆ちゃん元気！」と声を掛けて頂く等、理念通り地域との交流も盛んである。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	利用者様と一緒に自治会主催であるゴミ0運動、奉仕活動等に参加させていただき、認知症である皆様と触れ合っていた事で理解していただいております。	/	/
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	情報の活用場としてこの会に参加し、色々な問題を提起しながら地域の方々や改善策を考え、そのことを日々のサービスに取り入れています。	地域住民・自治会長・民生委員・中学校長・幼稚園園長・家族など多方面の参加を得て2ヶ月に一度定期的に開催している。日頃の活動状況を見て頂いたり、地域の状況をお話いただく等活発な意見交換がなされ、日々のサービス向上に良く活かされた運営推進会議となっている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日頃から、事業所の運営面等不明点は、相談し確認しています。認定調査来所時には、日々のサービスの実情・取り組みを伝え連携を図っています。	高齢支援課の担当職員の方を良く訪ね、相談を的確な助言を頂いている。又、職員の方の来所時には、日頃の取り組みや実情も良くお話している。先日の地震時には問い合わせの電話を頂く等良好な関係が築けている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止推進研修で学んだ事を職員全員が学び合いマニュアルも作成する事で正しく理解するように努めています。玄関の施錠については利用者様が自由に出入りできるようなシステムを導入したものの防犯上の管理がとりにくく安全を第一に考え施錠にて対応しております	全職員が、身体拘束廃止研修ビデオで研修を行い、レポートを提出している。自分が縛られたらどう思いますか？本人の意に反し行動を制限することも拘束に当たる。など全ての職員が身体拘束に関する理解のレベルが高まったことを示すレポート内容であった。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職場内研修を通して職員全員が虐待について正しい知識を学び、理解する事で「虐待はしない・させない」という姿勢を持ち防止に努めています。	/	/

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	千葉県高齢者権利擁護研修を通して学んだ事を職場内研修の場で職員一人ひとりが援助に必要な知識を高め、家族との対応の中でそれらを活用できるよう支援しています。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書を交わす際は口頭で説明しご理解いただいた上で署名・捺印をしていただきお渡しするようにしています。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明に明記・玄関には意見箱を設置し、ご家族より職員へお話があった場合は、記録に残し職員で共有・今後の対応も含め話し合っています。	面会時や家族会等の場では、意見を言って頂き易いよう配慮している。毎月のお手紙にはきめ細かく近況を書いて報告し、ご家族にも自由な意見を書いて頂くようにしている。家族連絡ノートに記録し、双方向で何でも伝えられるようにし、意見や要望を職員同士が共有でき、対応についても話し合っている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議・日々の申し送り時には、報告・連絡・相談をし、その際は様々な問題や意見を聞いて下さっています。そして色々とおアドバイスを下さり、それらを日々の介護に反映しています。	運営者・管理者は日頃から職員の意見・要望を良く聴くようにし、又、職員も意見や要望を言い易いと話している。勤務シフトについても職員の希望に良く対応している。入居者の見たい映画や歌謡番組等が見られるようDVD購入を提案し実現している。外部研修も積極的に受けることを勧め、研修費用を負担したり勤務扱いとする等、職員のスキルアップを図ると共に、職員のモチベーションを高める配慮もされている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日頃より一人ひとりに声を掛けていただき、個々の事情に合わせ勤務状況等考えて下さっていますのでとても働きやすい職場です。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム内の研修以外でも様々な研修に行く機会をいただき勉強させていただいています。又必要な参考書・書籍も購入させていただいています。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	千葉県第6ブロックGH外房連絡会・千葉県ホームヘルパー協議会・キャラバンメイト協議会主催の研修会等へ積極的に参加させていただき他の事業所と交流する機会をいただきサービスに反映させています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様が入居する際は、事前の情報を閲覧し、受容共感・傾聴しながら安心していただけるようまずは信頼関係を築くよう努めています。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	よりよい相互関係を築く上では、まずはご家族のお気持ちに寄り添い・要望に耳を傾ける機会を初期には重んじ、面会以外に電話連絡等でも対応しています。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期段階は様子をみながらではあるが、まずご本人・ご家族が安心できる環境作りを心がける中で、必要としている支援を見極め、又、私達では対応できない場合、他の事業所へ連絡し対応を依頼できるよう努めています。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族と同じように共に生活する一員とし、より良い人間関係を築きながら対応する中で利用者様と職員全員でひとつの家族だと思っています。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族との連携を保ちながら共に協力して利用者様を支えていく関係を努めています。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の同意を得て、電話や手紙の交換・面会に来て下さるなど交流出来るように努め、馴染みの場所を職員が把握しドライブや買い物を通じ関係を保っていけるよう努めています。	友人が訪ねてくる入居者が10名ほどいる。入居者の友人がコーラスやハーモニカのボランティアに来てくれる。併設のデイサービスに囲碁を打ちに行ったり、デイにきた時にホームに来るなどデイサービスとの交流も盛んである。行きつけのスーパーに買い物ドライブに行くついでに住んでいた家の近くを回ったりと馴染みの関係を続ける支援をしている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関わりの中でお互いに助け合ったり支えあったり、たまにはトラブルになったりしますが、それも大切なことなのでより良い関係がつかれるよう支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要とされているご家族にたいしては、対応を続けています。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員一人ひとりが、アセスメント・モニタリングにより利用者様の要望や訴えをシートに残し、又、月に一回のカンファレンスを実施する中でその人らしい暮らしが継続できるよう努めています。	普段の生活の中で利用者の表情から察するようにしている。利用者への日頃の寄り添い、会話の重要さを職員が認識している。センター方式を活用し、長期目標6か月、短期目標を3ヶ月で設定し、6か月に一度、センター方式のB・C・Dシートでアセスメントを行っている。また、センター方式Eシートを活用し、全職員でモニタリングを記入している。職員それぞれに気づきが違い、様々な視点から利用者を把握できる仕組みができあがっている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族からの情報や日々の会話の中、又は生活歴から把握に努め、センター方式へ記入することで情報を共有しサービス向上へつなげています。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の申し送りや月一度のカンファレンスにて事前に職員一人ひとりが記入したアセスメントシートを持ち寄り、話し合いの場を設け、共有することで現状把握に努めています。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングやアセスメントシートを持ち寄り、月一度のケアカンファレンスにおいて意見交換し、又、本人・家族に説明・意見を伺い、ケアプランに反映させています。プランの変更は定期的に変更し現状に即したケアプランを作成しています	随時、職員からケースに関しての相談があり、それらをカンファレンスで意見交換している。センター方式のEシートで各職員に評価をしてもらい、その中で指摘が重なるものを優先的にプランに入れていく。「申し送りノート」には何でも書くようにしており、「ケース記録」には夜間を赤色、日中を黒色、普段と違うことや皆に知ってほしいことを青色で記載し、情報共有を図っている。これらの記録もプランに反映される。家族との話をケアプランに反映させている。サービス担当者会議はしていないが、ご本人にもプランの内容を説明しているケースも多い。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録と業務日誌の記入を実施しています。気づきの点には色を変えて記録をとり情報がひと目で分かるよう工夫スタッフ間で共有し、見直しに生かしています。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	デイサービスが併設、利用者様同士の触れ合いを目的にデイサービスとの行事の共催や設備の共有を実施しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域住民によるボランティアの訪問や近隣の幼稚園・中学校・高校の生徒の見学・催し物等を楽しんでいただけるよう取り組んでいます。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎月定期的に宮本内科医院に受診し、院内に感染症の患者様が多い場合には往診に切り替え、又、利用者様のご家族から他の医療機関の受診をご希望される場合や先生の判断にて他の医療機関の受診が必要な場合等も対応しています。	主治医の受診の他、皮膚科、泌尿器科、眼科、婦人科、精神科、歯科、リハビリに家族が同行している。結果は「申し送りノート」と「ケース記録」に記入し、職員に周知する。主治医の受診は月に2度で、予約をしているので、待つことなく診察してもらえる。冬場は主治医の往診となる。また、急変時にも主治医が往診し対応できる環境にある。訪問歯科で義歯を作り直した方が4名いる。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	宮本内科医院・デイサービスの看護師等に協力いただき、看護師が訪問した際や受診時等、本人の様子を伝えたり・相談をし、より良い看護が受けられるよう支援しています。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先との情報の共有・面会を通して状態を把握して退院に向けての準備をしています。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですべてを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時にターミナルケアについて説明をさせていただき、具体的にお話しが必要になった場合には、宮本内科医院の先生からご家族にお話しをしていただき、家族の希望など話し合った結果、家族と共にチームで協力し合って取り組んでいます。	「重度化した場合における(看取り)指針」にて家族に説明している。看取りの時期には、家族と医師の面談の場を設けている。食事や水分が摂れない方は、いつでも管理者に連絡がつくようにするとともに、スタッフ間のコミュニケーションをとり、会議時にケアの仕方や対応法を伝え、申し送りノートに随時記入し情報の共有を図っている。最期の二日間を家族が泊まり込んで過ごしたケースもある。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	宮本内科医院の先生による専門的な知識の勉強会開催・マニュアル等を作成し実践力につなげています。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を年二回実施し、消防署の方々にも参加・指導していただいています。ご家族や地域の方々にも参加・協力を呼びかけ実施しています。	5月と11月に、日中の火事を想定して、防火扉まで移動する訓練を行った。利用者の家族にも参加を呼び掛け、消火器訓練には近所の方も参加した。研修にて災害時の職員の動きを確認しており、これから継続していく予定である。	職員の連絡網はあるが、いつ起きるか判らない災害に備えて、夜間用緊急連絡網の整備が望まれる。また、夜間の「通報・連絡・召集訓練」の実施を検討されているようなので、実施を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの自覚はもちろ内部研修の中で、各自確認し合い相互に声を掛け、職員の向上を図りながらつねに一人ひとりを尊重し敬う心を忘れずに対応するように努めています。	スピーチロックとなる「立たないで」「待って」は使用しないようにし、トイレ、入浴、更衣ではドアを閉めるようにしている。日常でも、言い方によっては拒否されてしまう人もあるので、どういう言い方をしたらいいか検討し個別対応を行っている。職員の言動で気にかかる点があれば管理者が対応している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	主は利用者様であり、個々の性格等を考慮し、利用者様が思いや希望を言えたり、決定が出来るよう導き出す働きかけに努めています。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	それぞれ皆さんペースが違うのでその人なりのペースを大事にし、希望に沿った過し方を決めていただいています。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問カットの利用を始め、居室には鏡付きの洗面台があり男性は髭剃りをしたり、女性は身だしなみ毛ぐし等用意し、好きな時にお化粧等も出来るようにしています。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	残存能力は一人ひとり異なる為、そこを見極めて、みんなで力を合わせて食器拭きや片づけ・盛り付けや味見をお願いする等、和気あいあいとした雰囲気の中で支援しています。又、献立のない日などは利用者様と考え食事作りをしています。	利用者の好みを考慮しながらメニューを作っている。月・水・金・日の昼食は利用者の希望をきき、買い物、調理している。誕生会では職員がケーキを作り、利用者と一緒に盛り付けている。普段の調理では、食材を切ったり、下ごしらえ、盛り付けを行う利用者もいる。食事制限のある方は、専用ノートに三食のメニューと摂取量を記入して取り組んだところ、医師より、月に一度は何でも食べていいと許可がでるまでとなった。月に一度、ファミリーレストランなどで外食を楽しみ、行かないときには出前やパンを買ったりと楽しんでいる。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	お一人おひとりに合った形状や量の提供を行っており、嗜好品の違い等により水分摂取にも気を配っています。いずれも記録に残し宮本内科医院の先生の指示を受け、日々の栄養バランスを整えるよう支援しています。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨き・口腔ケアの実施は徹底しています。舌のよごれも口臭の原因、肺炎予防の為に個人の状態に応じ口腔内の清潔保持に取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレの排泄チェック表に記録し、つねに確認しながらトイレ誘導・声掛けをしトイレでの排泄に向けて支援しています。その際の声掛けは、個々の自尊心を傷つけないよう配慮し行っています。	日中のおむつ使用者は2名。夜間も2名。立位がとれる方には、おむつはずしを検討している。日中は、紙パンツ使用が10名、布パンツ使用が6名となっている。夜間、居室トイレを使用の方には、シルバーカーに鈴をつけ、職員がすぐ対応できるよう工夫している。職員は何気なくケアするよう配慮し、排泄チェック表の排泄時間の少し前に誘導するようにし排泄の自立を維持するよう支援している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の有無の確認をチェック表に行い、水分補給をこまめに行い、飲食物の工夫は勿論、体を動かすレクの実施や受診時、宮本内科医院の先生から指示を仰ぐ等、個々に応じた対応をしています。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一日おきの入浴が基本となっていますが、その時々で利用者様の体調や希望に応じ対応し、入浴されない日は、清拭や足浴にて対応しています。ゆっくりと安心して安全に入浴して頂けるよう心がけています。	風呂場へは段差がある。職員二人で介助をする方や、シャワー浴対応の方もいる。1階デイサービスでの特浴も利用が可能である。垢こすりや石鹸を個人で用意している方もいる。入浴は利用者がリラックスされ、普段さくことができない話をされる場となっている。しょうぶ湯、ゆず湯を行い、季節を感じ楽しんでいる。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の利用者様の生活リズムやその日の体調等把握し、お一人おひとりが心地よく休息・安眠して頂けるよう支援しています。休まれる際の服装や温度・部屋の環境等配慮しています。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ケース記録にファイルしてある薬品服用カードをいつでも確認し理解に努めています。受診時、内服薬の変更があれば申し送りノートに記載し、職員全員に伝わるように努め、状態変化に十分に注意し支援しています。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	願いや望みを聞き入れ、利用者様の楽しみ・喜びを共有し、残存能力を生かしたそれぞれの役割を果たすことで、ご自分の存在の必要性を感じ頂くよう支援しています。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には、散歩に出かけたり、食材の買い出しにお連れしたり、外食や季節時々の地域の催し物等に出かけています。又、個別対応することで希望に沿えるよう努めています。	月に一度は遠出の外出に出かけ、週に一度はドライブを楽しみ、桜や紫陽花を見たり、海まで行っている。職員は、外気浴により季節を感じてほしいと考えており、3階のベランダでティータイムを過ごすこともある。月・水・金の午前中は買い物に利用者とお出かけている。10時～12時で一回り20分程のコースを散歩している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の所持金は金庫にて管理していますが、買い物や食事等、好きなものの購入の際は、自由に出し入れし利用者様が満足できるように努めています。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様の希望により電話対応を行い、職員から家族宛ての月一度の手紙を利用者様にご自分で書かれる時もあり温かく見守り配慮しています。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ユニット内の日差しや温度調節に関しては、職員が配慮し、リビングや廊下等の季節の装飾は利用者様と一緒に考え・作成し、心地よい空間づくりに努めています。	3階は日差しが強いのでブラインドで調節している。花が咲くリビングでは、歌や体操、ゲームを楽しみ、習字、水彩画、皆で制作したカレンダーを飾っている。訪問カットは、3階にあるシャンプー台を利用して行われる。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング以外にも廊下に長椅子・ソファをセッティングし利用者様同士のくつろぎの場となっています。気の合った同士が自由に過ごせる場でありその時間も大切にすることができています。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なるべく自宅で使用していた馴染みのある家具等を持ってきて頂けるよう努め、本人や家族の意向の元、居心地良い環境が作れるよう心がけています。	ベッド、カーテン、洗面、ミニクローゼットは備え付けてあり、トイレはある部屋とない部屋とにわかれる。利用者が持参されたものとしては、テーブル、いす、タンス、ラジオなどがあり、写真や手芸作品が飾られている。室内の配置では、ベッドに日差しがあたらないよう配慮するとともに、枕の方角を気にする方にも対応している。模様替えを楽しむ利用者もいる。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内は、安全に安心して生活して頂けるよう環境整備に努め又、行きたいけどその場が分からない利用者様の為には、絵表示を用いて誘導の手助けを工夫しています。		